

⑭ 清和県民の森 シイ・カシ林にモミ・ツガが混生する多様な森

【概要】清和県民の森は、小櫃川の水源地域にあり、水源の森百選にも選定されている。区域内に2つのダム湖を擁し、面積は約3,200haで、県民の森としては全国有数の規模。シイ・カシ類等の広葉樹とモミ・ツガ等の針葉樹が混生する多様な植物相を有しする。キャンプ場や県立博物館のフィールドミュージアムも設置されている遊びと学びの森である。

【森林の特徴と見所・歴史文化】

当地域の地質は、数千万年前に海底に堆積した地層が隆起した砂岩泥岩の互層で構成される上総層群に属する。浸食されやすいため、崖や露頭が多く、小規模な断層や火山灰の鍵層が容易に観察できる。

森林は基本的に暖温帯の照葉樹林林帯に属するが、シイ・カシ類をはじめとする常緑広葉樹にモミ・ツガ等の針葉樹が混生する多様な植物相を呈する。早春の林床にはスハマソウ、春は、マメザクラ、クロモジ、フサザクラ、ミツバツツジ等の花や芽吹き、夏はホタル観察会、秋には、晩秋の紅葉や豊富な種類のキノコが見られ、県民の森では、毎年キノコ観察会が開催される。尾根沿いには、モミ・ツガ等が多くみられ、秋は、アカモミタケやオオモミタケが観察できる。また、松くい虫の被害で激減したが、寒冷期の遺存種とされるヒメコマツやヒカゲツツジ等の貴重種も残る。

この地域の森林は、江戸時代以降薪炭林として利用されていた。昭和の時代が終わるころまで炭焼きが盛んに行われ、地域の生活を支えてきた。現在は、県有林として管理され、人為が適度に入った山里の豊かな森となっている。

数十年前まで、丘陵の尾根の突端等で見られたヒメコマツは、乾燥や松くい虫の被害のためほとんどが枯損し、房総半島の総本数は100本未満といわれるが、その8割が県民の森地域に分布する。関東山地では標高600～1700mに分布するヒメコマツが、ここでは標高120～350mに分布している。これは、氷河期等の寒冷期に分布を広げたものが、地形急峻な厳しい環境に遺ったものと考えられている。このように標高の低い丘陵地に暖地性から山地性までの植物が、麓から層状に分布する植生の姿について、生態学者の沼田眞博士は、かつて、「房総半島における植生の垂直分布の寸詰まり現象」として発表した。

【コース紹介】

国道410号線沿いに清和県民の森管理事務所と駐車場がある。標高300m足らずの丘陵であるが、地形は急峻で深山の趣がある。管理事務所（木のふるさと館）で、県民の森全体のマップや県立中央博物館が設置しているフィールドミュージアムの情報を入手できる。

観察コースは清和県民の森セラピーコースに従うのが良い。管理事務所の下の方の林道刈ヶ沢支線からすぐ左折し山腹の歩道を登り尾根に出る。春はマメザクラが淡いピンクの花を咲かせている。展望台では、変化に富む地形、常緑樹と落葉樹が織りなす景色が眺望できる。尾根伝いの歩道を下り林道刈ヶ沢線に出る。ロッジ村で休憩。大滝に下りて水遊びもできる。

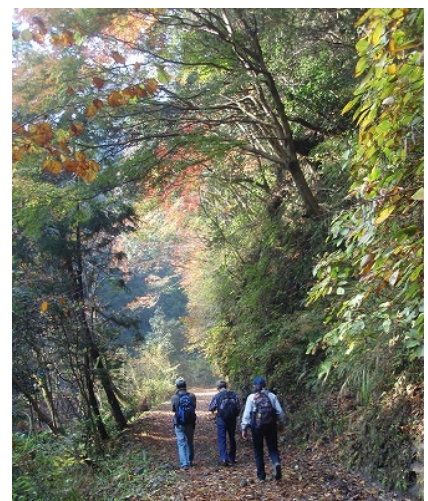
再び林道刈ヶ沢線を進み、林道刈ヶ沢支線との合流点を右折。キャンプ場の横をとおり、橋を渡り管理事務所に戻る。計約3.4km、休憩時間も含み2～3時間の歩程。

【アクセス】

JR 内房線木更津駅からサンラポールバス停までバスで50分、県民の森管理事務所まで徒歩約7分。
マイカー 君津ICから車で30分

【周辺の見所】

三島神社、高宕山(330m)、安房高山(標高365m)





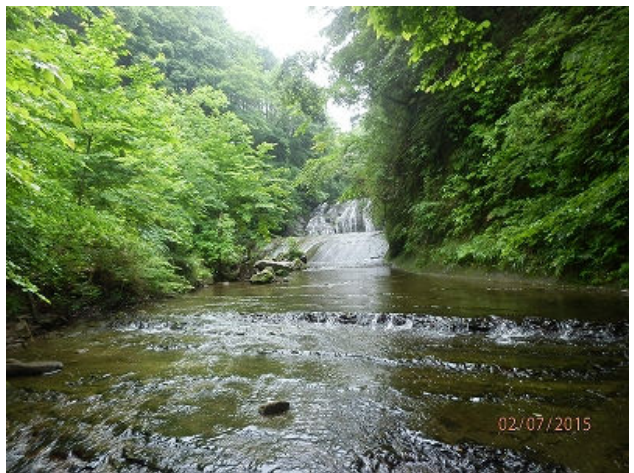
管理事務所



清和溪谷



清和の山並み



清和滝